

# SEG 英語多読 授業見学 レポート

# 生の英語に触れる時間を大切にしたい 自然に英語力が身につく「英語多読」

数学の専門塾として発足し、理系科目では抜群の指導力を誇るSEGだが、近年は英語の力を伸ばす塾としての認知度も急速に高まっている。一般的な英語の授業とは異なる多読という独特な方法論を展開し、海外経験ゼロにもかかわらず、SEGの英語多読を中1から受講して高2〜3で英検®1級を取得するといった生徒が増えているからだ。今回は高1の英語多読の授業がどのように行われているかレポートする。

## 多読と外国人講師との会話で 英語のリズムを体に叩きこむ

最初に、SEGの英語多読コースについて簡単に紹介する。中1からの英語多読コースは、多読パート80分と外国人講師との会話パート（以下外国人パート）80分がセットになった3時間授業だ。多読パートでリーディングの力をきたえつつ、外国人パートでリスニングやスピーキング、ライティングなどの力を高めるカリキュラムになっている。

英語は日本語とまったく異なるリズムを持つ言語だ。そのリズムを体得するには、さまざまなタイプの英語の文章にたくさん触れ、ネイティブが話すナチュラルなスピードの英語を大量に聴くことが必要だ。SEGの英語多読コースは、英語のリズムを徹底的に体に叩きこむような授業としてデザインされており、自然に英語の理解力が高まるように工夫されている。

多読については、もう少し説明が必要だろう。多読とは、英語の本を大量に読むことだが、意味が分からない単語があっても辞書を引かず、他の部分でその意味を推測しながら最後まで読み通すという読書を、何十冊と繰り返す学習方法だ。

重要なのは、どんな本を読むかだ。最初からまったく意味が分からない文章がずっと続くと続けようと思えなくなる。楽しくなければ続かない。自分の英語レベルに合う読んでいて楽しい洋書を、徐々にレベルを上げながら読み続けていくことが最も大切だ。

そのためSEGでは、専門的なトレーニングを受けた講師が、生徒のレベルや興味・関心に合わせて本をピックアップする方法をとっている。そして読後の感想に応じて次に読むべき本を手わたすことで、楽しく読み続けることができるようにしている。だからSEGの多読教室には、英語圏の幼児が読むような絵本からあらゆるジャンルの小説、ノンフィクション、図鑑、専門書など、膨大な洋書がストックされている。しかも、生徒が「この本が読みたい」と要望すればすぐに取り寄せてくれる



\*英検®は、公益財団法人 日本英語検定協会の登録商標です。

など、きめ細かく対応してくれ、楽しみながら読み続けられるような体制がとられているのだ。

## 読書に没頭する時間を大切にしながら 英文文やシャドーイングも実践

では、実際にどんな授業が行われているのだろうか。高1の英語多読の授業に参加してみた。最初は多読パートからだ。授業開始前から教室にはとてもフレンドリーな雰囲気があふれていて、学校が異なる生徒同士にもかかわらず、みんなとても仲が良いことが伝わってくる。

多読パートを担当するSEG代表の古川先生が教室に入ってきて、教室内は相変わらずにぎやかだ。先生の「それでは始めましょうか」の言葉で授業がスタート。基本英文プリントが配布されたのを合図にそれまでの喧騒がピタッと止み、鉛筆を走らせる音だけになる。5分間で5問の英文文を終え、提出すると、いよいよ多読の時間だ。

生徒はそれぞれ自分の読んでいる本を開き、黙読していく。誰もが最初は簡単な絵本から多読を始めるわけだが、特に中学の間は、付属のCD音声をヘッドホンで聴きながら音読することで英語のリズムに慣れるという読み方が主流だ。しかし高校生にもなると、黙読でも英語のリズムで読めるようだ。

特にこのクラスは最上位クラスなので、ジャンルこそ小説や漫画、数学の解説書と多岐にわたるもの、1冊の語数は数千語から数万語とかなり分厚い。ページをめくる回数も少なく、授業中に読み終え、本を交換することもあまりない。だから、完全な静寂の中で読書に没頭することになる。

その間、古川先生は提出された基本英文プリントを採点し、終了した生徒一人ひとりの机まで行って返却していく。生徒の答案に対してアドバイスすることもある。例えば、「（私が予約した）飛行機は11:30出発なので、空港に11:00までに行かないと。」という文章に対して「go to the airport」という表現を使った生徒には、「11:00の段階で空港に着いている必要があるの、get to the airportとすべきですね」といったものだ。



時折聞こえる先生のアドバイスの他にはほとんど音がしない本当に静かな時間が、1時間以上続く。残り10分のタイミングでセットされていたタイマーが鳴ると、今度はシャドーイングの時間だ。シェイクスピアのTwelfth Night（邦題：十二夜）を読むCD音声に合わせて、その音声のすぐあとから、まったく同じように読んでいく。感情をこめた表現なら同じように感情をこめて、スピードや強調する部分も、同じように。それまでの静寂から一転し、

古川先生も含めて教室に英語の音が響きわたる。

この日はTwelfth Nightの最後の章で、お互いの素性を明かし合い、大団円を迎えた。先生が「最後はハッピーエンドになりましたね。都合の良い展開ではありませんが、まあ、昔のお話ですからね」とコメントすると、生徒から「確かに」と声もれ、しっかり内容を理解しながら読んでいたことがうかがわれた。

その後、基本英文プリントの解答を配って多読パートは終了した。先生は、もうすぐ読み終わるような生徒に「もう少しこのシリーズを続ける？ それとも別のシリーズにする？」などと声をかけ、必要な本を手わたして教室を出ていった。

## 英文読解に必要な重要概念を 英語で学ぶ外国人パート

20分間の休けい中は、生徒はコンビニに行ったりスマホを見たりと自由に過ごしていた。

外国人パートを担当するのはRoss先生。イギリス出身で、生徒の人気の高い。授業開始5分前に教室に入ってくると、パソコンのセッティングを始める。外国人パートは、自宅で受講する生徒のためにZoom配信も行っているからだ。

あらかじめ断っておくが、授業の時間はすべて英語で、配布プリントも含めて日本語は一切使われていない。このレポートで日本語にしている部分もすべて英語でのやりとりだということを気に留めておいてほしい。

さて、時間になるとRoss先生は出席を取り始める。生徒のフルネームを呼び、「How are you today?」「I'm tired」と答えた生徒には「Why?」と聞き、「I'm OK」にも「Why?」と問いかける。昨日が誕生日で「Happy Birthday」と答えた生徒には、「Enjoyed it?」「ケーキは誰が作ったの?」「どんなケーキ?」と矢継ぎ早に問いかけ、会話をながめていく。また試験勉強で疲れたという生徒に対しては、「試験で疲れたのではありませんか?」と問いかけ、試験中に昼夜逆転した生徒の話を、「こういう生活はあまり勧めない」とのアドバイスも。ネイティブのナチュラルなスピードで話しているのだが、ほとんどの生徒が理解しているようで、さすがに最上位クラスだけある。

10分くらいかけて出席を取ると、先生は「I have a question. Have you ever read a long English sentence?」と問いかけ、本日のクラスペーパーを配った。「Sentence Analysisについてのペーパーです。Analysisって何? 隣の人の2人で話し合ってください。生徒が「Understand deeply」と答えると、「Yes, good」と先生。



次いでParagraph, Word, Sentence, Book, Chapterを大きな順に答えさせ、「今日はSentence chunksについて勉強します。ピケットを割ると1つのかたまりが2つに分かれる、それがchunkです」と説明。そのうえで1つの文章を異なるchunkに区切った例文2つを取り上げ、「どっちのchunkingが良いかパートナーと話し合ってください」とうながす。それぞれの生徒が話し合った結論を伝え、「Why?」とその理由まで考えさせていく。

こうした例文を4つ紹介しながら、文章のchunkは、人物や場所、アクションなど意味のかたまりごとに分けられていることを生徒に伝えていく。chunkingが長い文章を理解する際に役立つことを理解させたところで、英語読解における重要概念であるchunkingについての解説を終えた。

次に、ある映像をスクリーンに映し出した。先週までの流れを2人組にして話し合せて内容を確かめ合い、それを全員で共有してから新しい場面を観ていく。一言ずつ止め、「今、何て言った?」と生徒に問いかける。映像を伴っているため、単純なリスニングよりも理解しやすいようだ。耳慣れない言葉の解説も含めて、物語の流れを追いながら、映像とRoss先生からの膨大な英語がシャワーのように生徒に降り注いでいく。

場面の切れ目でプリントを配布しchunking practiceを行わせ、どれくらい内容を理解できたかを聞いていく。chunkを意識することの意義を強調しているようだ。その後、再び映像の続きを解説しながら流し、最後の2分間は映像を止めることも解説もなく鑑賞し終えたところで今回の授業は終了だ。最後に今日流した場面について解説したプリントとホームワークプリントを配り、「来週もまたchunkingについての学習を続けよう」と告げて、Ross先生は教室を後にした。

外国人パートは、本当に80分間英語漬けだった。不思議なもので、授業の最初より、先生の英語がほんの少しだけ理解できるようになったと感じた。大量の英文と大量の生の英語に毎週触れているSEGの生徒の英語力が伸びるのは、当然なのだろう。

## SEG 高1 英語多読

# 受講生の声

中学からずっと英語多読コースを受講している生徒のみなさんは、どんなところに魅力を感じているのでしょうか。英語力の伸び具合も含めて聞いてみました。

## 外国人と話すときに 英語力がついたことを実感

中2からSEGの英語多読に通っています。最大の魅力は、何と言っても他塾にはない外国人パートの存在です。一対一で外国人と会話するというのはとても新鮮な感覚で、最初は慣れませんでした。だんだん聞き取れるようになっていきました。学校で外国人の先生と話す授業があるときは、他の生徒はシュンとなるのに自分はそこそこ会話できるため、そこで英語力がついたことを実感します。

◆M.M.さん (私)早稲田



## 3年半ですでに 400万語を読破!

母に勧められ、中1から通っています。多読パートでは1冊読むことに感想を聞いてくださり、ジャンルや文体、読みやすさなど私の好みに合わせて選書して下さるためどんどん読み進めることができ、ついに400万語を突破しました!外国人パートは授業自体も楽しいですが、中1からずっとRoss先生なので互いのことを分かり合っている安心感もあり、あうんの呼吸で授業に参加できるのも楽しみの一つです。

◆K.G.さん (恵泉女学園)



## ネイティブの英語を 聞き取る耳が養われる

多読パートでは「英語で数学の本が読みたい」という抽象的な要望を伝えるだけで数学に関するいろいろな種類の本を持ってきてくださるため、読書欲をかきたてられます。外国人パートでは、1語1語はしっかり発音し聞き取りやすい通常のリスニング教材とは異なり、ネイティブが話す自然な英語の発音の傾向を学ぶことができます。楽しみながら英語を聞き取る耳が養われる点が一番の魅力です。

◆S.I.さん (桐朋)



<https://www.seg.co.jp/>

03-3366-1466

[月~金] 14:00~21:00 [土] 13:00~21:00  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-19-19

中学1年~大学受験

科学的教育グループ **SEG**®